

平成 26 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

1 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保ならびにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関等が協議・連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 20 年度には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップ等を実施し、平成 21 年 3 月、これからの公共交通施策の根幹ともいえるべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、市民のための持続可能な公共交通体系の構築を目指し、各種事業に取り組んできた。

平成 26 年 3 月には、これまで進めてきた公共交通づくりに資する基本方針を踏襲するとともに、引き続き、持続可能な公共交通体系を構築するため、「第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、計画に則り、以下の事業を実施した。

2 平成 26 年度の事業内容

(1) 活性化協議会の開催

地域の実情に即した輸送サービスについて審議・決定するため、協議会を 3 回開催した。

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	5 月 14 日	16 人	1 人	・平成 25 年度事業経過報告・収支会計決算報告 ・平成 26 年度事業計画、収支会計予算 ・第 1 期総合連携計画の総括について（報告）
第 2 回	10 月 27 日	14 人	2 人	・幹線交通検討分科会設置要綱の一部改正について ・湯舟のりあいタクシーの事業計画の変更について ・坂上線バス運行計画の変更について
第 3 回	2 月 17 日	17 人	なし	・坂上線バスの運行計画の変更について ・坂上線バスの事業計画の変更について ・大竹駅停留所（大竹・栗谷線バス、栄ぐるりんバス）について ・栄ぐるりんバスの事業計画の変更について

【事業費】	報償費：170,000 円（@5,000 円×34 人（3 回分）） 食糧費：4,850 円
-------	---

(2) 幹線交通検討分科会の開催

分科会設置要綱の一部改正、会長選出及びこいこいバス運行 5 周年記念事業について協議するため、分科会を 4 回開催した。

	開催日	出席者	主な協議内容
第1回	6月12日	7人	・幹線交通検討分科会設置要綱の一部改正について ・会長の選出について ・こいこいバス運行5周年記念事業について
第2回	7月29日	8人	・こいこいバス運行5周年記念事業について
第3回	8月18日	8人	・市広報特集記事について ・こいこいバス運行5周年記念事業について
袋詰め作業	9月18日	7人	・ポケットティッシュ、ポケット時刻表の袋詰め作業 ※分科会委員とは別に、自治会連合会女性部会より1名の応援あり

こいこいバスの運行5周年を記念して、幹線交通検討分科会として以下の事業を実施した。

ア 記念品配付事業

大竹市自治会連合会の協力により、市広報10月号の配付時に市内の全世帯へポケットティッシュとポケット時刻表を配付した。

イ 無料運行事業

10月26日(日)の「バスの日」に無料運行した。

ウ 告知事業

「こいこいバスが運行5周年であること」「記念事業を実施すること」をケーブルテレビで告知するとともに、利用を呼びかけた。

【10/26利用者数】 大人：357人、小学生：14人、小学生未満：6人、計：377人

【関連事業費】 食糧費：4,220円

無料運行：72,800円 (運賃補てん)

上記のほか、こいこいバス運行5周年を記念して、市広報10月号に特集記事を掲載した。

また、こいこいバス運行5周年を記念して、こいこいバスに乗ってまちの魅力を再発見する特集番組「大竹こいこいバスの旅(15分番組)」を株ふれあいチャンネルが制作・放送した。

大竹編：10月27日～11月2日

小方・晴海編：11月24日～11月30日

玖波編：12月22日～12月28日

なお、視聴者プレゼントとして、地域公共交通活性化協議会から回数券(100円券12枚綴り)、ポケットティッシュ、ポケット時刻表を9セット(各編×3人)提供した。

【関連事業費】 報償費：9,000円 (回数券9冊)

(3) 広報紙による啓発記事掲載

市発行の「広報おおたけ」に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を毎月掲載し、市民への情報提供及び啓発を実施した。

また、三ツ石地区乗合タクシーとこいこいバスの運行5周年を記念して、それぞれ市広報9月号、10月号に特集記事を掲載した。

【事業費】 印刷製本費：426,600円 (@1.58円×20ページ×12,500部+消費税)

(4) こいこいバスの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。

平成26年度も順調に利用者が増え、年間利用者数(93,088人)、月間利用者数(12月:8,476人)、収益率(67.7%、広告収入含む)が過去最高を更新した。

また、10月26日(日)の「バスの日」に無料運行、11月に「バスエコファミリーキャンペーン」を実施した。

【受託者】	(有)大竹交通、(有)大竹タクシー
【運行期間】	平成26年4月1日～平成27年3月31日
【運行区間】	JR大竹駅～JR玖波駅(全長:8.0km、停留所:19か所)
【運行日数】	毎日運行(平日:248日、土日祝日:117日、計:365日)
【運行便数】	平日:34便、土日祝日:32便
【利用者数】	93,088人 ※平均値:255人/日、7.65人/便
【運行経費】	26,516,000円 ※2台運行
【事業収入】	17,950,355円(収益率:67.7%) { 運賃収入:17,713,619円 広告収入:228,096円(ベンチ) 広告収入:8,640円(車内) ※運賃収入には、市制施行60周年記念事業の実施にあたり社会健康課が購入した回数券代1,000,000円を含む。
【補助金額】	8,565,645円
【関連事業費】	回数券等印刷:56,246円 ポケット時刻表印刷:54,000円 無料運行:72,800円<<再掲>> バスエコファミリー:5,000円 ※小学生無料分補てん

(5) 三ツ石地区乗合タクシーの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。

最も利用者数が多かった平成23年度以降、利用者が減少傾向にあるものの、運行・運営状況は他の乗合タクシーと比べて最もよい。

年間の収益率は、運行開始当初から40%台を維持していたが、平成26年度は初めて30%台となった。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成26年4月1日～平成27年3月31日
【運行区間】	三ツ石地区～ゆめタウン大竹または市役所
【運行日数】	156日(毎週月・火・金曜日運行)
【運行便数】	11便/日(行き5便、帰り6便)
【利用者数】	1,263人(792台) ※平均値:1.59人/台
【運行経費】	736,560円(@930円×792台)
【運賃収入】	287,040円(収益率:39.0%)
【補助金額】	449,520円

(6) ひまわりタクシーの実証運行

平成23年7月から玖波7丁目で実証運行を開始し、平成24年1月には運行区域に玖波8丁目を編入した。

玖波8丁目を運行区域に編入して以降は利用者が増加傾向で、平成26年度は利用者数、1台あたりの利用者数とも過去最高を記録した。

平成24年9月から早朝及び夕方を試験増便しており、その利用状況を踏まえ、玖波7・8丁目合同の運行協議会でダイヤ改正や利用促進策について検討した。

【受託者】	㈱大竹交通
【運行期間】	平成26年4月1日～平成27年3月31日
【運行区間】	玖波7・8丁目～JR玖波駅または広島西医療センター
【運行日数】	156日(毎週月・火・金曜日運行)
【運行便数】	11便/日(行き5便, 帰り6便)
【利用者数】	1,141人(725台) ※平均値: 1.57人/便
【運行経費】	652,450円 (@830円×218台+@930円×507台)
【運賃収入】	240,533円 (収益率: 36.9%)
【補助金額】	411,917円

(7) 湯舟のりあいタクシーの実証運行

平成24年1月から実証運行を開始した。

運行開始当初から利用状況が芳しくなかったため、平成25年9月と平成26年12月の2回にわたり運行内容を変更した。平成26年12月以降の利用状況は運行内容変更前と同程度で推移している。

【受託者】	㈱大竹交通
【運行期間】	平成26年4月1日～平成27年3月31日
■4月1日～11月30日	
【運行区間】	湯舟地区～JR玖波駅または広島西医療センター
【運行日数】	104日(毎週月・水・金曜日運行)
【運行便数】	10便/日(行き6便, 帰り4便)
【利用者数】	165人(139台) ※平均値: 1.19人/便
【運行経費】	87,570円 (@630円×139台)
【運賃収入】	27,496円 (収益率: 31.4%)
【補助金額】	60,074円
■12月1日～3月31日	
【運行区間】	湯舟地区～広島西医療センターまたはゆめタウン大竹
【運行日数】	51日(毎週火・水・金曜日運行)
【運行便数】	10便/日(行き5便, 帰り5便)
【利用者数】	69人(57台) ※平均値: 1.21人/便
【運行経費】	53,010円 (@930×57台)
【運賃収入】	15,681円 (収益率: 29.6%)
【補助金額】	37,329円
■平成26年度(年間)	
【利用者数】	234人(196台) ※平均値: 1.19人/便
【運行日数】	155日
【運行経費】	140,580円
【運賃収入】	43,177円 (収益率: 30.7%)
【補助金額】	97,403円
【関連事業費】	車両表示板作製: 32,400円 乗車券印刷: 46,656円

(8) 栄ぐるりんバスの実証運行

平成24年2月から実証運行を開始した。支線交通としては、唯一の定時定路線型バスを運行している。

運行開始当初から利用状況が芳しくなかったため、平成25年9月に運行内容を変更したが利用状況が改善しないため、再度、運行委員会で運行内容を検討し、運行内容を変更することとした。

あわせて、道路交通法の基準を満たしていないため、大竹駅バス停を駅前広場南側から北側へ移設した。(いずれも変更日は平成27年4月1日)

【受託者】	(有)大竹タクシー
【運行期間】	平成26年4月1日～平成27年3月31日
【運行区間】	JR大竹駅～栄地区巡回～JR大竹駅 全長：8.2km、停留所：25か所
【運行日数】	313日(毎週月・火・水・木・金・土曜日運行)
【運行便数】	14便/日(青ルート8便、赤ルート6便)
【利用者数】	8,096人 ※平均値：25.9人/日 1.85人/便
【運行経費】	10,702,500円
【事業収入】	1,508,300円(収益率：14.1%) ┌ 運賃収入：1,432,700円 └ 広告収入(車外)：75,600円
【補助金額】	9,194,200円
【関連事業費】	停留所標識作製：325,080円(結節点整備費) 大竹駅区画線引替等：129,600円(結節点整備費)

(9) その他、新たな支線交通の検討と導入

平成26年6月に油見1丁目の住民から公共交通に対する要望・相談があったため、地区住民6人に対して説明会を開催し、市の公共交通整備の方針等を説明した。現時点では、その後の動きはない。

(10) 大竹・栗谷線の見直し

平成26年1月22日に開催した「大竹・栗谷線バスについて考える座談会」において出された意見や要望等について、改善策を検討した。

また、栄ぐるりんバスと共用していた大竹駅バス停の移設に伴い、バス停を駅前広場南側から改札口前(こいこいバスと坂上線と同じ場所)へ移設した。(変更日は平成27年4月1日)

【関連事業費】	大竹駅バス停標識作製：90,000円(結節点整備費)
---------	----------------------------

(11) 坂上線の運行ルートの見直し

平成25年度に検討した前飯谷を経由する運行ルートが実車での走行が可能であったため、ルートを変更することとした。ルート変更にあわせて、地区住民の利便性を向上させるため、前飯谷公民館にバス停留所を新設するとともに、「発着点となるバス停のダイヤ編成の考え方」「共用バス停のダイヤ編成の条件」を定め、安全にバスを運行するため、ダイヤを改正した。(いずれも変更日は平成27年4月1日)

また、市上下水道局発注の防鹿地区管渠（上水・下水）布設工事の施工に伴う迂回ルートを設定した。（変更期間は平成27年5月から平成32年2月末まで）

【事業費】	前飯谷公民館バス停標識作製：27,864円	（結節点整備費）
【関連事業費】	大竹駅バス停標識作製：90,000円	《再掲》

(12) モビリティ・マネジメントの実施

公共交通（バス）を教材として、児童が地域や環境について考える機会を設けるため、小学校低学年を対象とした出前講座を企画し、小学校に呼びかけたが、希望する小学校がなかった。

モビリティ・マネジメントの一環として、バスに乗るきっかけづくりとして実施したバスエコファミリーキャンペーンの記事を市広報11月号に掲載した。

(13) バスエコファミリーキャンペーンについて

平日に比べて土日の利用者が少ないことから、土日祝日の利用を促進するとともに、モビリティ・マネジメントの一環として、こいこいバスについては、11月の土日祝日に限り、大人に同伴する小学生を無料とするキャンペーンを実施した。（平成23年度に実施し、平成24年度からは恒例行事とした。）

【事業費】	小学生分補てん：5,000円（50人分）	《再掲》
【利用実績】	平成23年度：29人、平成24年度：57人、平成25年度：71人、平成26年度：50人	

(14) 広告の募集について

こいこいバスと栄ぐるりんバスの収入を確保するため、市広報11月号にこいこいバス（ベンチ広告、車内広告）と栄ぐるりんバス（車外広告、車内広告、停留所標識広告）の広告募集記事を掲載した。

【平成26年度広告料収入】	《再掲》
こいこいバス：1件、228,096円	（ベンチ広告22か所（44枠）分）
こいこいバス：1件、8,640円	（車内広告4か月×2台分）
栄ぐるりんバス：2件、75,600円	（車外広告6か所分）

(15) 実証運行の継続を判断する基準の検討

第2期大竹市地域公共交通総合連携計画を策定する際のパブリックコメントにおいて、市民から「赤字は税金で補てんするのだから、運行状況が悪い支線交通は運行を打ち切るべきではないか」との意見があり、実証運行の継続を判断する「基準を作成したい」と回答した。（平成25年度第4回協議会（平成26年3月20日））

他自治体の基準を参考にして基準を検討していたが、市長と協議した結果、「市が基準を決めるのではなく、どの程度の利用状況であれば本格運行への移行について市民の理解が得られるかを各運行委員会で検討する」こととなった。

(16) 平成 26 年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

総合連携計画の計画事業をより円滑かつ効果的に実施するため、専門的知識・ノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

【受託者】	株地域未来研究所中国四国事務所
【業務名】	平成 26 年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務
【履行期間】	平成 26 年 6 月 23 日 ~ 平成 27 年 3 月 27 日
【業務内容】	<ul style="list-style-type: none">◇ 本格運行路線の検証と運行支援<ul style="list-style-type: none">・こいこいバス及び三ツ石地区乗合タクシーの利用状況の検証・こいこいバス回数券デザインの作成・こいこいバス定期券デザインの作成◇ 実証運行路線の検証と運行支援<ul style="list-style-type: none">・ひまわりタクシー, 湯舟のりあいタクシー, 栄ぐるりんバスの利用状況の検証・栄ぐるりんバスの運行内容変更に伴うバス停デザインの作成, 周知チラシデザイン作成◇ 大竹・栗谷線及び坂上線の検証と運行支援<ul style="list-style-type: none">・大竹・栗谷線及び坂上線の利用状況の検証・バス停掲示用のルート図デザインの作成・大竹・栗谷線の乗継券デザインの作成◇ 利用促進やモビリティ・マネジメントの実施支援<ul style="list-style-type: none">・こいこいバス運行 5 周年記念のポケットティッシュのカバーデザインの作成・市ホームページ掲載用のこいこいバス関連図面の作成・油見地区住民説明用の資料の作成◇ 実証運行の継続を判断する基準事例<ul style="list-style-type: none">・実証運行している支線交通の運行継続を判断する基準について, 他都市の事例等を収集◇ 定点調査の手法検討<ul style="list-style-type: none">・こいこいバスの評価に資する調査方法を検討◇ 関連計画の整理<ul style="list-style-type: none">・公共交通の整備に関係する大竹市の関連計画を収集・整理
【事業費】	2,000,000 円

3 大竹市公共交通活性化基金の活用

平成 23 年度に米軍再編に伴う防衛省の再編交付金を活用し、公共交通活性化基金を造成した。平成 24 年度からこいこいバスと支線交通の計 5 路線を対象とし、運営経費の財源として活用している。

【基金名】	大竹市公共交通活性化基金
【造成日】	平成 24 年 3 月 29 日
【基金額】	105,000,000 円
【再編交付金額】	102,585,000 円
【事業年度】	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度
【繰出金】	平成 24 年度 : 14,236,447 円 平成 25 年度 : 16,037,693 円 平成 26 年度 : 16,973,885 円 (予定)
	{ こいこいバス : 8,565,645 円 三ツ石地区乗合タクシー : 449,520 円 ひまわりタクシー : 411,917 円 湯舟のりあいタクシー : 97,403 円 栄ぐるりんバス : 7,449,400 円